



フッカー西林勇登選手が逆転のトライ

3月7日 【釜石鶴住居復興スタジアム】

日本製鉄釜石シーウェイブス うのスタで魅せた価値ある勝利

日本製鉄釜石シーウェイブスは、東日本大震災復興祈念試合でチームが常に持ち続けてきた「釜石を胸に刻み戦う誇り」を体現し、首位の花園近鉄ライナーズに30対22で勝利しました。選手たちは最後まで走り続け、体を張った守備と粘り強い攻撃で試合の主導権を握りました。勝利への強い気持ちが表れたプレーに観客から「釜石コール」が響き、会場は大きな一体感に包まれました。



平和の願いを込めたたこを飛ばす子どもたち

3月1日 【唐丹グラウンド】

ガザへ届け 空に舞う たこに平和の願い込め

東日本大震災を機に交流を続けるパレスチナ自治区ガザの平和を願い、たこ揚げが行われました。野球スポーツ少年団・釜石ファイターズの児童や親子連れら約50人が参加し「みんな幸せ」「せんそうダメ！」など戦争のない世界を祈るメッセージを釜石の空に高く掲げました。空を通じて思いを届け、平和への願いを新たにしました。



SMC株から寄贈されたワンタッチ式テント2張

3月19日 【市長室】

災害に「備える」 SMC株から防災備品の寄贈

SMC株からの防災備品の寄贈は5回目となるもので、同社はワンタッチ式テント2張を市長に手渡しました。久保工場長は「会社全体で常に地域貢献を意識しており、今後も地域の人々のためにできることがあれば積極的に取り組んでいきたい」と述べました。市長は、継続的な支援に感謝を伝え、寄贈されたテントは今後の防災訓練や災害時の活動で有効に活用される予定です。

3月3日 【かまいしこども園】

おもてなしの心を育む お茶のおけいこ お点前披露

かまいしこども園の年長児13人が茶会体験をしました。同園では、月に2回ほど、おじぎの仕方や礼儀、所作、お茶の作法などの指導を受けており、1年間の稽古の成果を披露し保護者をもてなしました。園児は和菓子運び、お茶をたて、緊張しながらも堂々とした姿で「お茶をどうぞ」と言って差し出すと、保護者は「おいしい」と笑顔で味わっていました。



保護者に振る舞うお茶をたてるかまいしこども園の年長児



地域おこし協力隊の活動報告を聞く参加者

3月23日 【釜石PIT】

地域を動かす活動の軌跡 地域おこし協力隊が活動成果を報告

地域おこし協力隊の活動報告会が開かれ、企業右腕型として着任した6人が中間報告を行うとともに、任期を終えた行政型の3人がこれまでの取り組みを振り返りました。各分野で地域課題の解決や魅力発信に取り組んできた成果や今後の展望が語られ、来場者は熱心に耳を傾けました。多様な視点で地域に関わる地域おこし協力隊の今後の活躍に、期待が高まります。

3月11日 【釜石祈りのパーク 他】

東日本大震災15年 各地で続く変わらぬ祈り

東日本大震災から15年。残された人たちが、それぞれの大切な人を思い、市内各所で鎮魂の祈りをささげました。時は過ぎても癒えない悲しみを抱えながら、それぞれが静かに震災と向き合う一方、直接の記憶を持たない世代も、家族や地域の体験に耳を傾け、その思いを受け止めながら語り継ぐなど「この日」は、かけがえのない命を見つめ、記憶と教訓を未来へ伝える日でもあります。

鶴住居町の釜石祈りのパークでは、訪れた人たちが献花台に白菊を手向け、手を合わせました。芳名板の名前を静かになぞり、顔を近づけ声をかける姿も見られました。

また、追悼式では、釜石高校3年の山陰皇騎^{おうき}さん(17)が「未来へのメッセージ」と題し、亡き父への思いや高校生活を通して感じたことを述べ「記憶を持つ最後の世代として、しっかりと語り継ぎ、教訓を風化させないことが使命だ」とメッセージを発信しました。



1_釜石祈りのパークで亡き人を思い名前に手を伸ばす 2_14時46分、犠牲者を悼み手を合わせる人々 3_父への思いを胸に「未来へのメッセージ」を発表する山陰皇騎さん 4_身元不明の遺骨を安置する東日本大震災物故者納骨堂で行われた供養 5_殉職消防団員の顕彰碑に遺族や消防団関係者らが献花



株三陸ブロードネットから寄贈された熊鈴

3月26日 【教育長室】

「熊鈴」を身に付けて 毎日の登下校を安心・安全に

株三陸ブロードネットは、近年市内でクマの出没が見られる状況を受け、児童が安心して登下校できるよう、令和8年度に市内小学校へ入学する新1年生全員分として「熊鈴」112個を市教育委員会へ寄贈しました。寄贈された熊鈴は入学式などの機会に配布される予定で、児童はもちろん、保護者の皆さんにとっても安心につながる心強い取り組みとなっています。